

① これから福祉教育に取り組む皆さんへ

福祉って何？ 福祉教育って何？

◆福祉って？

福祉の「福」・「祉」という字の意味…どちらも「しあわせ」という意味
福祉（ふくし）＝「だんの~~く~~らしの~~し~~あわせ」づくり

地域に住む人たちが互いに助け合うことで、私たちだれもが幸せに暮らしていくことができます。福祉とは、障がいのある人や支援を必要とする人だけでなく、すべての人が幸せで安定した生活を送ることができるように、互いに支え合うことです。ただし、幸せの感じ方は人によって違うため、違いがあることを認め合って、それぞれが幸せに暮らせるように助け合うことが大切です。

◆福祉教育って？

高齢者や障がいのある人たちに限らず、だれもがかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除なく、安心・安全に気持ちよく生きていくためにはどうしたらよいかを考え、それを、個人で、そして他の人たちと一緒に実践できるようにしていく「ともに生きる力」を育むことが福祉教育の目的です。

自分たちの暮らしている地域が、だれにとっても住みやすい地域になるようにするには、子ども、高齢者、障がいのある人、すべての人々がそれぞれ役割を持ち、支え合いながら暮らせる地域を自分たちで作り上げていく必要があります。そのことを、子どもの頃から意識し、地域社会の一人としての土台作りをするために、「福祉教育」では、学校の力だけでなく、地域の方々の力を活用して展開することが大切です。



◆学校下の福祉教育（福祉学習）の目的は？

福祉学習には様々なプログラムが考えられますが、障がいや高齢者の疑似体験、施設訪問、手話・点字などのプログラムがよく行われています。これらのプログラムを通して、子どもたちが気づくこと、感じることはとても大切です。しかし、その目的は体験自体や技術習得ではありません。「障がいのある人や高齢者との交流や体験活動を通して、障がいのある人や高齢者の感じ方や考え方などを理解し、その人の立場に立って考えること」、「障がいのある人や高齢者とともに暮らしていくために、自分たちができることを考え、実践しようとすること」です。「かわいそうだ」や「たいへんそうだ」という感想で終わるのでなく、その感想から始める「振り返り」の学習が大切です。多様な生き方を受け入れ、自分たちがどうすればよいか、そのための人とのつながりやコミュニケーションの大切さとその後の行動を主体的に考えられるように「学び」を深めてください。

学習のねらいの設定から、事前学習、体験、振り返りまでの「気づく⇒感じる⇒考える⇒行動する」という一連のプロセスを限られたわずかな時間で実施することは難しいと思いますが、教科横断あるいは学年横断で実施するなどの方法も考えられます。また、体験型の学習だけでなく、学校や地域など子どもたちの身近なところにある生活課題・福祉課題を取り上げて解決方法を考える「だれもが暮らしやすいまちづくり」なども大切な視点となります。子どもたちの学年や学校、地域の実態に応じて取り上げていただきたいと思います。

福祉学習を通して子どもたちに身につけてもらいたい力は、主に次の5つが考えられます。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ① 他人を思いやる力 | ④ 自分の考えを発信する力 |
| ② 自他の違いを認める力 | ⑤ 自分で考え行動する力 |
| ③ 相手の立場になって考える力 | |

これらの力を身につけた子供たちの変容・成長は、必ず学校や家庭、地域の変化につながり、だれにとっても住みやすい「福祉のまちづくり」の実現に近づきます。

